

製品名: 切断型第 XII 因子 HC (R372) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08991**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	41kDa

抗原情報

遺伝子名	F12
別名	F12; Coagulation factor XII; Hageman factor; HAF
遺伝子 ID	2161.0
SwissProt ID	P00748
免疫原	抗血清はヒト FA12 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 323-372

背景

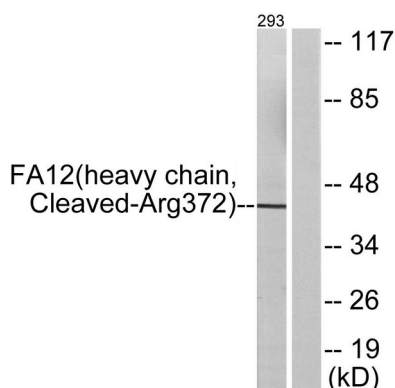
この遺伝子は、血液中をチモーゲンとして循環する凝固因子 XII をコードしています。この一本鎖チモーゲンは、重鎖 (α -因子 XIIa) と軽鎖を持つ二本鎖セリンプロテアーゼに変換されます。重鎖には、2つのフィブロネクチン型ドメイン、2つの上皮成長因子

(EGF) 様ドメイン、クリングルドメイン、およびプロリンリッチドメインが含まれますが、軽鎖には触媒ドメインのみが含まれます。活性化されると、重鎖でさらなる切断が起こり、 β -因子 XIIa 軽鎖が生成され、 α -因子 XIIa 軽鎖は β -因子 XIIa 重鎖になります。プレカリクレインは因子 XII によって切断されてカリクレインを形成し、カリクレインによって因子 XII はまず α -因子 XIIa に、次に β -因子 XIIa に切断されます。活性型第 XIIa 因子は、血液凝固、線溶、ブラジキニンおよびアンジオテンシンの生成に関与します。触媒活性: 第 VII 因子中の Arg-Ile 結合を選択的に切断して第 VIIa 因子を、第 XI 因子を切断して第 XIa 因子を生成させます。疾患: F12 の欠陥は、第 XII 因子欠乏症 (FA12D) [MIM:234000]の原因です。これは、ハーゲマン因子欠乏症としても知られています。この特性は、in vitro 血液凝固における無症候性の異常です。診断は、凝固検査における血漿中の因子活性の低下に基づきます。通常は、術前の血液検査で偶然発見されます。F12 欠乏症は、交差反応物質 (CRM) 陰性群 (F12 抗原検出陰性) と CRM 陽性群 (F12 抗原検出陽性) の2つのカテゴリーに分けられます。疾患: F12 の欠陥は、遺伝性血管性浮腫 3 型 (HAE3) [MIM: 610618]の原因です。HAE3 は、エストロゲン関連 HAE または C1 インヒビターの濃度と機能が正常な遺伝性血管神経性浮腫としても知られています。HAE は、上気道と消化管を伴う断続的な局所皮下浮腫と粘膜下浮腫を特徴とします。HAE3 は女性にのみ発生し、高エストロゲンレベル (妊娠中または経口避妊薬による治療中など) によって促進または悪化します。C1 インヒビターの濃度と機能はともに正常であるという点で、HAE タイプ 1 および 2 とは異なります。機能: 第 XII 因子は血清中の糖タンパク質であり、血液凝固、線溶、ブラジキニンおよびアンジオテンシンの生成に関与します。プレカリクレインは第 XII 因子によって切断されてカリクレインを形成し、カリクレインが第 XII 因子をまず α -第 XIIa 因子に、次に β -第 XIIa 因子に切断します。 α -第 XIIa 因子は第 XI 因子を活性化して第 XIa 因子にします。オンライン情報: F12 変異データベース, オンライン情報: 第 XII 因子エントリ, PTM: O-および N-グリコシル化。O-結合型多糖類は特定されていませんが、おそらく GalNAc に結合したムチン型です。類似性:ペプチダーゼ S1 ファミリーに属します。類似性:フィブロネクチン タイプ I ドメインを 1 つ含みます。類似性:フィブロネクチン タイプ II ドメインを 1 つ含みます。類似性:クリングルドメインを 1 つ含みます。類似性:ペプチダーゼ S1 ドメインを 1 つ含みます。類似性:EGF 様ドメインを 2 つ含みます。

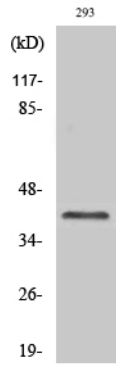
研究分野

補体と凝固カスケード;

画像データ



エトポシド 25 μ M で 1 時間処理した 293 細胞ライセートの、FA12 (重鎖、切断型 Arg372) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



切断型第 XII 因子 HC (R372) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析